



『隕石はどこから』

100年くらい前、アメリカの大統領の有名な言葉があります。「隕石というのは、空から降ってくる石だと学者が言っているけれど、それが本当だと思うよりは、その大学の教授が嘘をついていると思うほうがもっともらしい。」アメリカでは一般的にこういう認識だったのでしょう。

我が国では天から降ってきた隕石・隕鉄について霊力あるものとして特別視し、ご神体として崇められることもありました。幕末から明治時代にかけて活躍した榎本武揚（1836～1908年）は旧幕臣、政治家、外交官などとして知られます。徳川幕府の『開陽丸』建造に際してはオランダへ留学した科学者でもありました。彼は隕鉄刀に強い関心を持ち、1895年に富山県上新川郡白萩村で発見された白萩隕鉄を購入し、1898年、隕鉄刀を、刀工岡吉國宗に命じて作製させました。そのうちの長刀は「流星刀」と命名され、当時皇太子であった大正天皇に献上されました。

つい近年まで、隕石・隕鉄がどこから飛来してくるのかわからず、風で舞い上げられたものであるとか、魔性の物体であるとかいわれていました。英語のメテオライトは「空中の物体」を示す古代ギリシャ語の「メテオラ」に由来します。地球外から飛来することは、1794年にドイツのクラドニが初めて発表しました。

1964年からアメリカのスミソニアン天文台では「プレーリーネットワーク」と称して、ミシシッピ河流域の平野部に16ヶ所の自動カメラステーションを設置して隕石・隕鉄を待ち受け、幸運にも1970年に隕石の落下を観測することができました。この観察結果から、軌道計算によって、隕石・隕鉄が太陽系の火星と木星との間の小惑星帯から飛来することが判りました。そして地球の大気中でも燃え尽きずに地上に落下した小惑星の“かけら”が隕石や隕鉄なのです。

石質のものは隕石、天降石、天石、星石などとも呼ばれます。隕石・隕鉄の成因は、地球が“かけら”となった場合を考えるとわかりやすい。外側（地殻）は隕石となり、鉄とニッケルで構成された核は隕鉄となります。当然、その中間も存在しますが、その数は少なくステンドグラスのように綺麗なものもあります。（左下の写真参照）

隕石（いんせき：Stone meteorite）

隕鉄（いんてつ：Iron meteorite）

参考図書

巨大隕石衝突—6500万年前の謎を解く 松井孝典 著（株）岩波書店 2009年2月10日
鉄の歴史と化学 田口 勇 著（株）裳華房 1988年7月10日

☆先月号から、突然隕石と隕鉄の記事に替わりましたが、ロシアの隕石騒ぎと隕鉄の一部が非常にサビにくいことによります。当分隕鉄のことを書きます。

『鉄のふしぎ博物館』

来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目がかかりますよ。
ぜひお越しください。



むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！

『白萩隕鉄』



ホームページと電子メールをご利用ください。

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
ryou@memenet.or.jp

富山市科学博物館HPより借用